

経営者への活きた言葉

経営は規模の大・中・小を問わず共通している 宮村 眞平(三井金属相談役)

1. 私が経営者として得た教訓は2つです。
まず1つは、経営とは環境の変化に対応する力と、その変化を先読みする能力だということです。もう1つは、経営というものは大企業でも中小・零細企業でも8割は共通しているということです。例えば製造業であれば、品質が良い製品を低いコストで作る。それには技術開発力が必要です。これはトヨタ自動車でも、従業員5人の企業でも変わりません。中小企業でも中小企業なりに、コストを切り詰めながら良い品質の製品を世の中に送り出さなければならないのです。
2. この考え方を全社で徹底するために、私はとにかく現場を回り、同じ話を繰り返しました。特に子会社は親会社ばかり見て、自分の現場をよく見ないから、「収益を上げて親会社に貢献しなさい」と諭した^サものです。
3. ビジネス環境を先読みする力をつけるために、従業員には時に「他流試合」が必要です。製品は営業担当者だけで売るのはありません。作る人も顧客を向くべきです。そして新事業を立ち上げたり、他社と提携をすすめたりすることが、株主や取引先に満足感をもたらします。

(参考:「日経ビジネス」2011年9月19日号)

経営者のための理念・哲学

財産ではなく言葉を残す 渋澤 健(コモンズ投信会長、渋沢栄一玄孫)

1. 皆さん勘違いしてよくこう言われます。「渋沢栄一の^{ヤシヤゴ}玄孫ならさぞ財産を持っているだろう」と。だけど大変な期待外れです。栄一は子孫に財産を残さなかったのです。だけど、実は残してくれたものがたくさんあったことに気づきました。それが言葉です。
2. 「渋沢栄一伝記資料」という68巻の分厚い資料をめくると、栄一の言葉がたくさん出ています。そこにはいまの時代に通じる言葉が数多くありました。財産は下手をするとなくなるし、上手く運用しても税金で取られてしまう。だけど、いい言葉はいつまでも残るものだと改めて思いました。

(参考:「致知」2011年12月号)